

2020
3.22 (Sun.)

第一回 日本メンタライゼーション研究会
学術集会

日本における、
メンタライゼーション臨床のデザイン

9:30-12:40 講演

メンタライジング・アプローチの現在1 (仮)

Dr. Peter Fonagy

メンタライジング・アプローチの現在2 (仮)

Dr. Anthony Bateman

14:00-17:00 シンポジウム

司会：白波瀬丈一郎 (慶応大学・特任准教授)

精神科臨床における実践 崔炯仁 (いわくら病院・診療科長)

児童福祉臨床における実践 菊池裕義 (千葉県銚子児童相談所・児童心理司)

精神分析臨床との兼ね合い 池田暁史 (文教大学・教授)

メンタライゼーションのアセスメント 上地雄一郎 (岡山大学・教授)

指定討論：Dr. Bateman & Dr. Fonagy

同志社大学良心館 B1F

RY 地1教室

(地下鉄「今出川駅」すぐ)

Design of Mentalization for clinical practice in Japan

今回の学術集会は「日本における、メンタライゼーション臨床のデザイン」をテーマとしました。「デザイン」が表すのは、概念から実践を発想し、実践の形を具体化する過程です。メンタライゼーションは、人の有する自分自身や他者の心を理解する能力に関する概念です。この概念は、境界性パーソナリティ障害（以下「BPD」）に対する治療方法（MBT: Mentalization-based Treatment）という実践の形を得て、ランダム化比較試験でその有効性を示しました。このMBTこそ、メンタライゼーションの代表的デザインです。それでも、それは唯一のデザインというわけではありません。メンタライゼーションはさまざまな臨床場面で多様な形で実践され、その数だけ、特定のメンタライゼーション臨床がデザインされているからです。

多様な臨床デザインが存在することは、メンタライゼーション概念の汎用性の高さを表しています。加えて、この多様さによってメンタライゼーション概念はさらにその豊かさを増しているともいえます。特定のメンタライゼーション臨床をデザインする度に、メンタライゼーションとは何かが変わって問われ、何を行うことがメンタライゼーション能力の向上をもたらすのが探究されていくからです。

午前中の講演では、Bateman 先生と Fonagy 先生には、英国そして世界においてデザインされている、メンタライゼーション臨床についてお話しいただきます。

午後のシンポジウムは、我が国のさまざまな臨床場面において、メンタライゼーション臨床のデザインに取り組む4人のシンポジストにご発表いただきます。Fonagy 先生と Bateman 先生に指定討論者として加わっていただき、「日本における、メンタライゼーション臨床」について議論したいと考えます。さらに、その議論から、メンタライゼーション概念とは何かを改めて考え、それをさらに豊かにすることに寄与したいと考えています。

対象

医療・心理・教育・福祉などの分野に従事する専門家または大学院生（事例に関する守秘義務を守る方）

会費

一般：6000円・院生：5000円・当日参加：7000円

（当日参加は定員に空きがある場合に限り受け付けます。確実な参加をご希望の方は事前申し込みをお勧めいたします）

申し込み方法

「学術集会参加希望」の件名で下記必要事項を記入し、日本メンタライゼーション研究会事務局までEメールをお送りください。メールの返信をいたします。その後の入金の確認をもって参加受付といたします。

①氏名 ②性別 ③所属 ④職種（院生含む）・資格

⑤連絡先（メール&電話番号）

mentalization-office@umin.ac.jp

定員

400名

申込期限

2020年2月29日（土）

問い合わせ

日本メンタライゼーション研究会

<http://mentalization.umin.ac.jp>

